

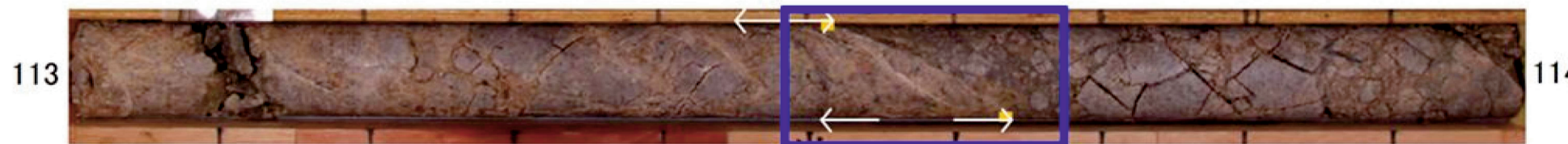
H27-B-1 深度113.51~113.60m 断層ガウジの幅 (No.54) を最新観察結果に伴い変更

- 従前提示していたデータでは、性状一覧表に断層ガウジの幅を0.2cmと記載していたが、以下のことから、0.1cmが正しい値であるため、0.2cmから0.1cmに変更した。
- コアの再観察の結果、深度113.60mの最新活動面に分布する断層ガウジの幅は0.1cmであった。
- 従前提示していたデータは、肉眼観察に基づく断層岩区分により断層ガウジと判断した箇所ではなく、コア観察カードに記載のある深度113.56mの粘土の幅1~2mmを誤って記載したものと推定した。

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料 (H27-B-1 深度113.51~113.60m)

・実測した断層ガウジの幅は0.1cmである。

コア写真



変更前の幅の記載

凡例  
 断層ガウジ  
 破砕部範囲  
 ※:写真上は白色で記載

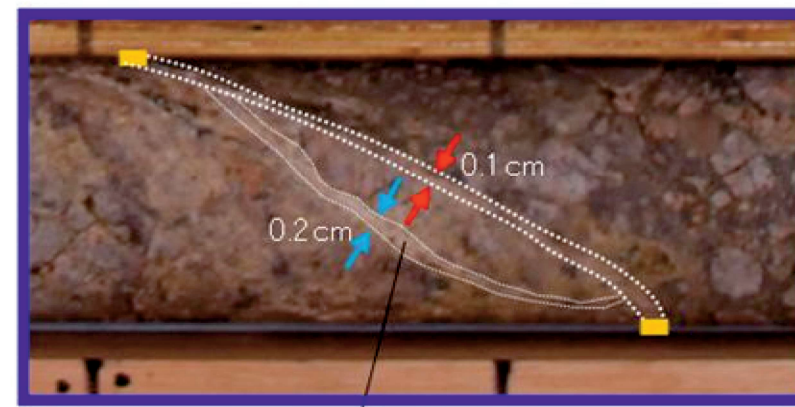
該当箇所のコア観察カード

・113.56m/Hc-1  
 66°と122°の4.22°傾いて遷換。途中、厚17mm粘土の分枝、  
 片断石を認め、51に合致する粘土(51)の  
 色調は灰白色(7.5YR 9/2)。厚で1~2mm。  
 ・113.56m/113.60m: HJ  
 上部66°傾いて遷換。下部63°傾いて遷換。色調は灰白色(7.5YR 9/2)の  
 連続的な断層岩として遷換。片断石と粘土の層に  
 67°傾いて遷換。粘土の層に遷換。色調は灰白色(7.5YR 9/2)。厚で1.5mm



青枠部拡大

0 5 cm



青枠部拡大

0 5 cm

深度113.56mの粘土

凡例  
 : 従前の断層ガウジ幅  
 : 変更後の断層ガウジ幅

H27-B-1 深度118.94~119.12m 最新活動面の深度 (No.55) 、全景写真の記載 (No.56) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料 1 薄片観察結果

参考1-125頁

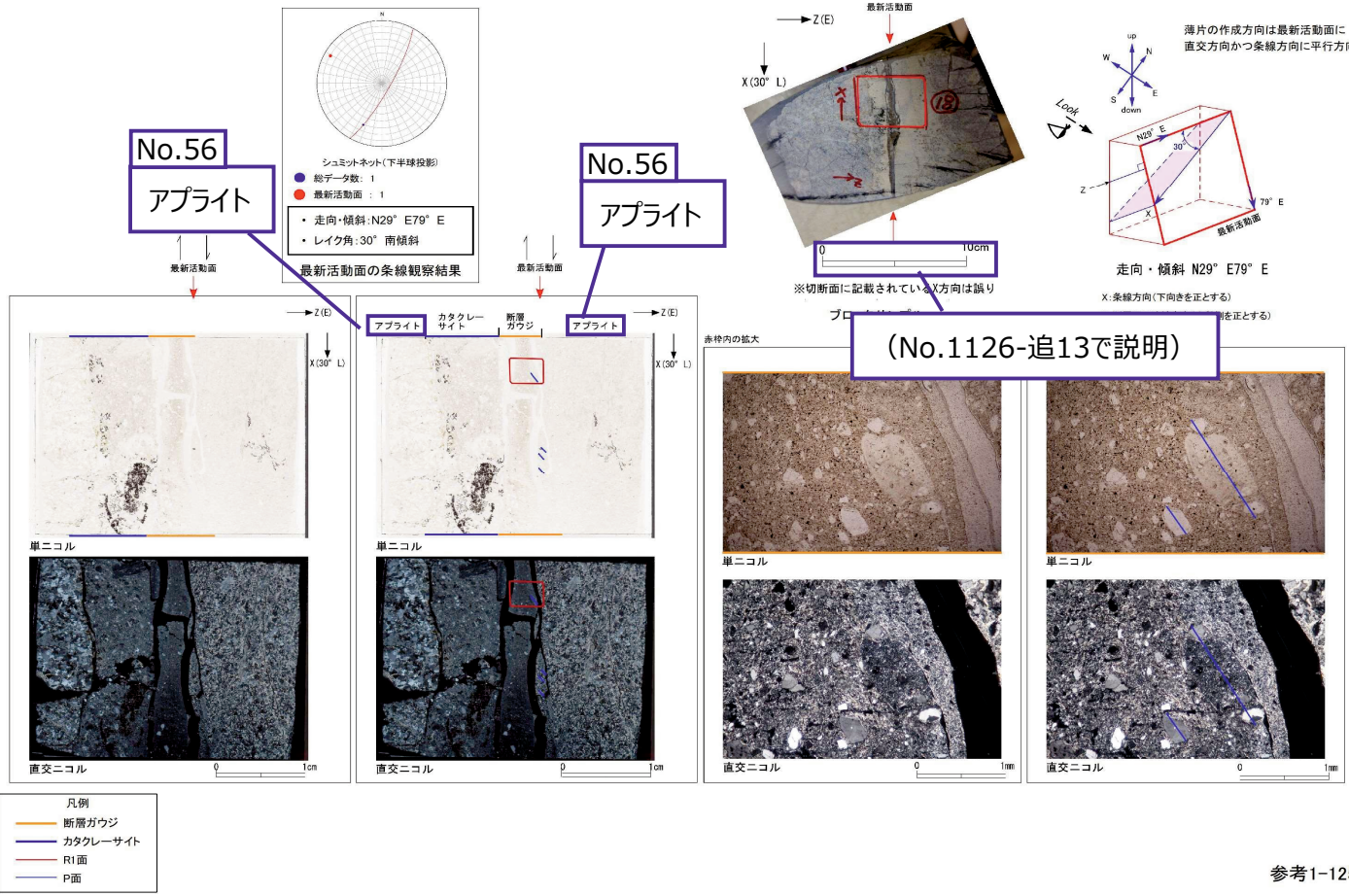
第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

No.55  
119.10m

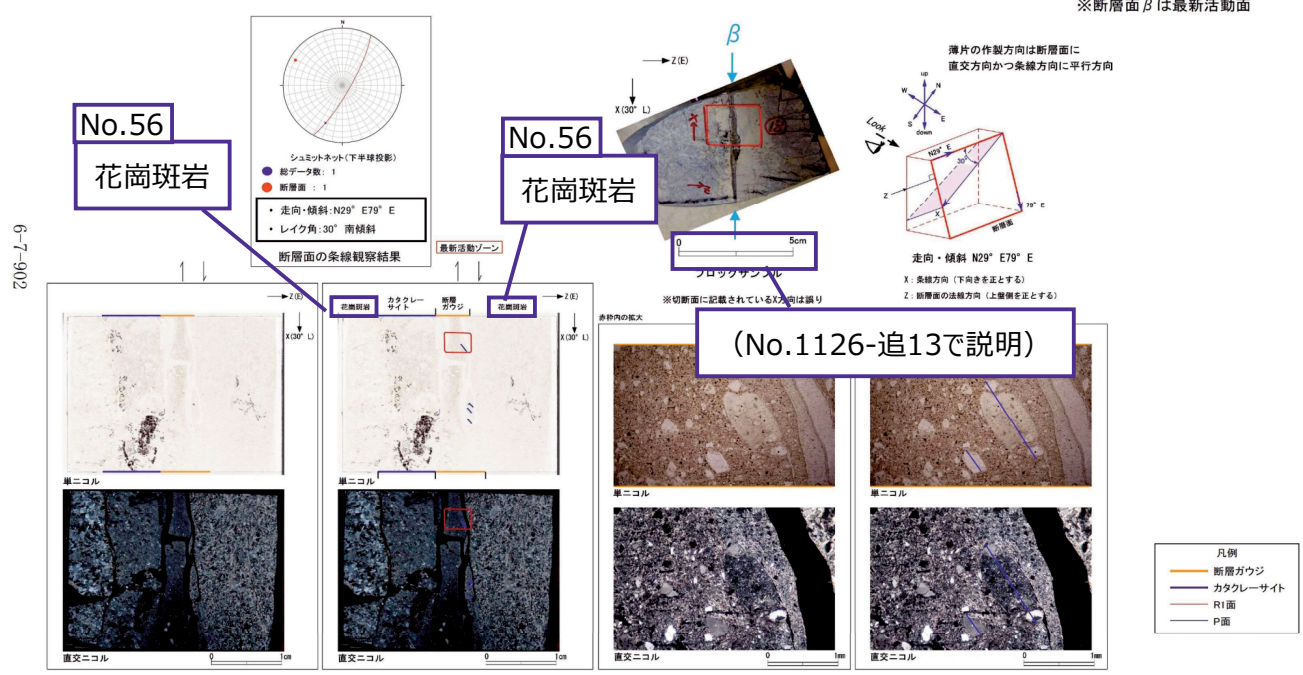
No.55  
(フォーム見直しにより数値の記載なし)

D-41破碎帯 薄片試料観察(H27-B-1 深度119.10m)

H27-B-1のボーリングコア(深度119.10m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。



・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。  
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。  
 > (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。  
 > (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。  
 > (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。  
 > 岩片は少ない。



第7.4.4.278図 (3) 破碎部性状 H27-B-1 深度118.94~119.12m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

H27-B-1 深度139.82~139.88m 全景写真の記載 (No.57) を修正

従前

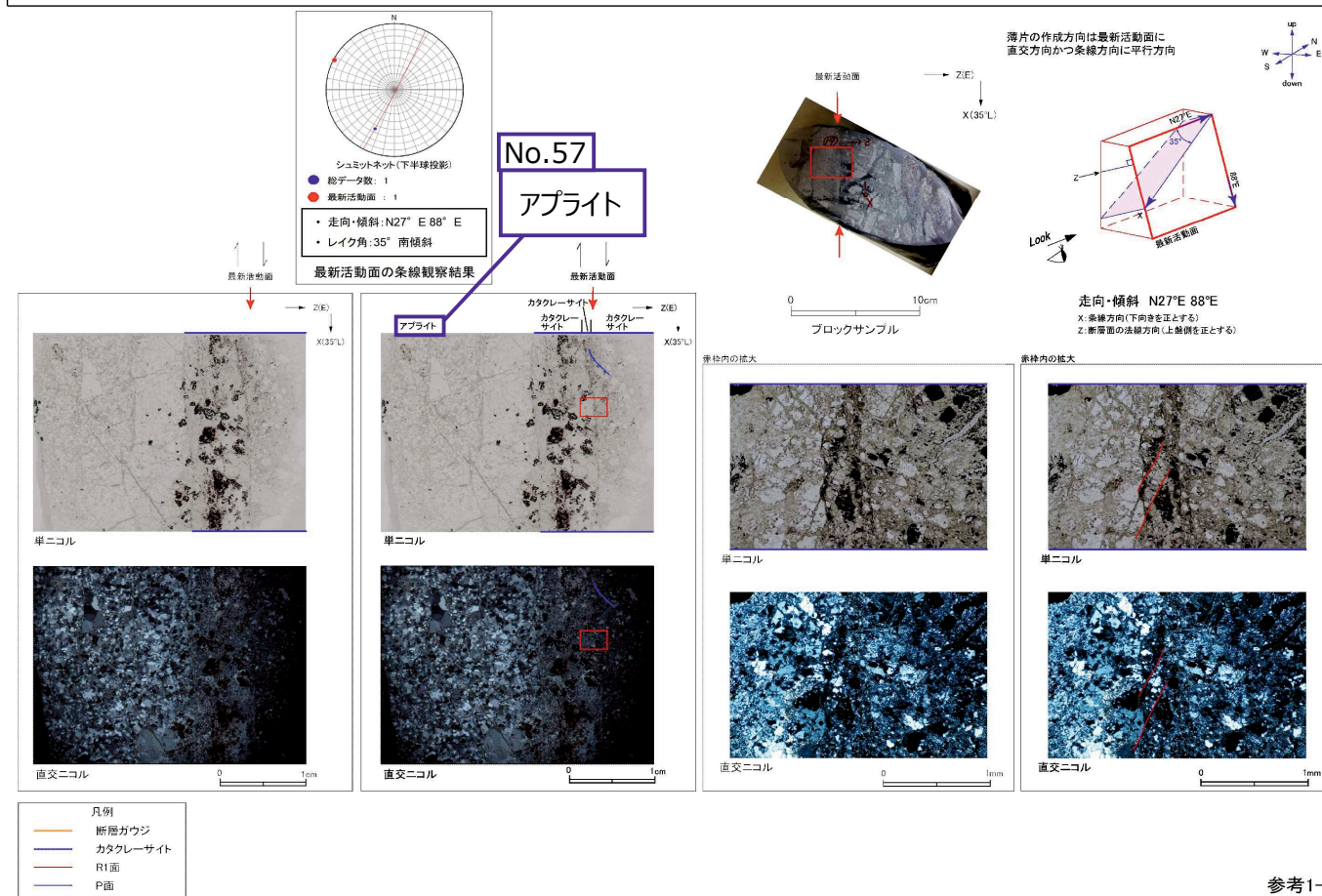
見直し後

第833回審査会合  
机上配布資料1  
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について  
参考資料1 薄片観察結果  
参考1-127頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

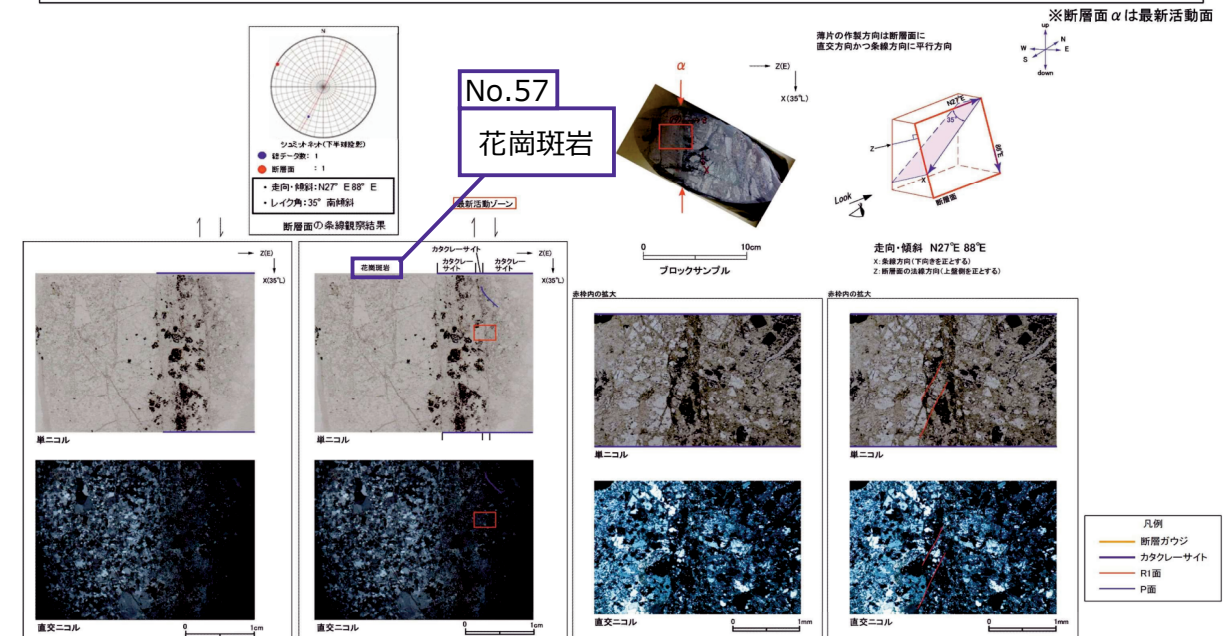
D-42破碎帯 薄片試料観察(H27-B-1 深度139.82m)

H27-B-1のボーリングコア(深度139.82m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。



・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。  
・最新活動ゾーン以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。  
➢ (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。  
➢ (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。  
➢ (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。  
➢ (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。  
➢ (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。  
➢ (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。

6-7-907



第7.4.4.279図(3) 破碎部性状 H27-B-1 深度139.82~139.88m (変位センス, 薄片観察による断層区分(1/2))